卓球競技実施要領（身体・知的・精神）

１．競技規則

平成２９年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（(公財)日本障がい者スポーツ協会制定）及び日本卓球ルール（（公財）日本卓球協会制定）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

２．競技方法

（１）競技種目は、一般卓球とサウンドテーブルテニス（ＳＴＴ）とし、５ゲームマッチ（１ゲーム１１ポイント）で行う。

（２）試合は原則として、各ブロック５名以内のリーグ方式とする。

（３）出場選手が少ない障害区分及び年齢区分では、別の障害区分及び年齢区分の選手と合わせて同一ブロックを構成することがある。ただし、順位の決定、記録の認定及び表彰は、それぞれの障害区分別に行う。

３．競技用具等

（１)試合球

ア　一般卓球　(公財)日本卓球協会使用指定球：４０ｍｍホワイト

イ　ＳＴＴ　　(公財)日本障がい者スポーツ協会検定球：４０ｍｍオレンジ

（２）ＳＴＴに出場者はアイマスクを着用すること。着脱についてはプレー領域にはいる前に着用し、終了後プレー領域を出るまで着用しなければならない。（アイマスクを外す場合は主審が認めたときのみ）

（３）ラケットは各自用意すること。

４．競技服装等

番号布は競技服の上着の背部に付けること。

５．選手招集

（１）選手招集時刻は､試合開始１５分前とする。

（２）選手招集時刻に遅れた選手は、原則として棄権したものとみなし、試合に出場できない。

６．表彰

（１）表彰は､各ブロックごと､障害区分別及び年齢区分別に行う。

（２）選手は、表彰案内時刻に表彰会場にブロックナンバーごとに集合、着席すること。

【参考】

（１）肢体不自由者および知的障害者については、フリーハンド（ラケットを持っていない手首より先）がコートに触れても失点とならない。ただし、コートを支えて打ったりテーブルを動かしてはならない。

（２）身体的理由により主審の承認を得、主審が相手方にサービスの仕方について変更を知らせた場合には、サービスの規定を緩和することができる。
　また、知的障害についても、主審が対戦相手の不利にならないと認めた場合、サービスの規定を緩和することができる。

（３）車いす使用者が正しく出されたサービスをレシーブする際ボールが①レシーバーのコートに触れた後、ネット方向に戻った場合、②レシーバーのコートに止まった場合、③レシーバーのコートに触れた後、どちらかのサイドラインを横切った場合は、ラリーはレットとなる。ただし、「レット」が宣告される前に打球した場合は、そのまま有効となる。

（４）知的障害が原因と認められる試合の中断があった場合、１つのマッチでの中断時間は最大１０分間とする。また、速やかな試合進行のために、審判、監督、介助者等が競技者に進行を促す言葉をかけたり、選手に触れることができる。